

平成28年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業

(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【 豊明市 】
平成28年度に実施した取組の内容及び成果と課題
<p>1. 事業の実施体制</p> <p>NPO法人プラスエデュケートとの委託契約とした。プラスエデュケートと学校、教育委員会が連携し、事業の円滑な運営を行う。また、必要に応じて連絡協議会を開催し、情報共有の場を設けた。</p>
<p>2. 具体の取組内容</p> <p>NPO法人プラスエデュケートに委託をし、日本語初期指導教室を開設した。市内小中学校6校から23名が通級し、日本語指導を受けた。今年度は、特に低学年が多く、学習習慣の定着を図るとともに、市販のテキストではついていけない子供もいたため、プラスエデュケートが作成したオリジナル教材を使用して指導した。また、連絡協議会を開催し、プラスエデュケートと学校、教育委員会のお互いの情報交換と指導についての情報共有を行った。さらに、小学校高学年以上の子供には、JSLカリキュラムを用いた教科に繋がる指導を実施した。</p> <p>1月からは、就学前児童への日本語指導を市内3保育園で各15時間ずつ行った。初期指導の1か月ごとの出席状況等の報告をプラスエデュケートから教育委員会に、その後各学校へと伝えた。また、指導が終わるころにDLAを実施し、その評価と指導計画をプラスエデュケートが作成し、その後学校での指導の参考とした。</p>
<p>3. 成果と課題</p> <p>本事業を実施することで、本市において、不登校や不就学の可能性のある外国人の子供を学校に行かせることができた。また、平成28年度からは、指導期間を3か月から6か月に延長できるようにしたため、小学校高学年以上の子供たちは、JSLカリキュラムに基づいた教科に繋がる指導ができた。さらに、初期指導教室に通った子供たちは、DLAを使った評価も行き、指導計画に基づいた指導ができた。</p> <p>日本語指導の内容については、プラスエデュケートが作成したオリジナル教材を用いて指導を実施し、子供の意欲を盛り立てるものにより、発話が増え、教室での活動が活発になった。同時に読解力を高めるために読書や作文に取り組みさせるなど工夫を凝らしたカリキュラムを行うことができた。</p> <p>しかしながら、保護者の都合により送迎ができない場合は、通わせることができないため、指導の差が生まれてしまうという課題もある。</p>
<p>4. その他(今後の取組等)</p> <p>今後もプラスエデュケートとの連携を一層強化し、DLAの実施と指導計画の作成を進めていきたい。また、初期指導教室を受けられる子供の数を増やすために、指導者研修などにも取り組んでいきたい。</p> <p>来年度からは、学校の空き教室を活用しての日本語指導を実施することで、送迎の問題を一部でも解消したいと考えます。</p>